

がん薬物療法における 薬剤師の関わり

～がん専門病院の取り組み～

日時

2025年**11月23日** 
12:00～13:00

会場

第5会場 神戸国際展示場2号館
2階 2A会議室
〒650-0046 神戸市中央区港島中町 6-11-1

座長

神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部 部長
神戸市立神戸アイセンター病院 薬剤部 部長

室井 延之 先生

演者

地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター 薬局 薬局長

高木 麻里 先生

申込方法

本年会のメディカルセミナーは事前申込制です。
詳細は年会ホームページ上でのご案内となります。
<https://convention.jtbcom.co.jp/35jsphcs/>



がん薬物療法における薬剤師の関わり

～がん専門病院の取り組み～

地方独立行政法人 大阪府立病院機構大阪国際がんセンター 高木 麻里

がん薬物療法は近年ますます高度化しており、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬(ICI)の普及により、治療選択肢は大きく広がっています。それに伴い、薬剤師には、治療薬の適正使用、副作用マネジメント、アドヒアランス支援、安全管理など、より専門的かつ多岐にわたる対応が求められています。

当センターは大阪府大阪市にあるがん専門病院で、特定機能病院、都道府県がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療拠点病院等の指定を受けており、年間の抗がん薬調製件数(入院・外来)は5万件を超えています。薬剤師が「対人業務」に注力できる体制整備を進めており、調製ロボットや調剤ロボットの導入、非薬剤師の活用による業務分担などにより、業務効率化を図っています。また、抗がん薬調製では、閉鎖式調製器具を全面的に使用し、膀胱内注入等への適用も拡大することで、安全性のさらなる向上を目指しています。

特に、外来がん薬物療法においては、2025年7月より、薬剤師による医師の診察前面談の対象を拡大し、副作用モニタリングや服薬状況の確認などを通じて、PBPM (Pharmacist-Based Patient Management) に基づいた支持療法薬の処方提案を行い、治療の質向上に寄与しています。さらに、医師のタスクシフトの一環として、薬剤師が持参薬の確認後に代行承認を担うことで、診療効率と医療安全の両立を図っています。

当センターではチーム医療も積極的に推進しており、ICIによる免疫関連有害事象(irAE)への対応として多職種によるirAE対応チーム(ICIP)を組織し、重症・難治例への介入を行っています。薬剤師は、irAEを主としたステロイド外来への関与やICI投与患者に専用シールを配布するなど、患者とその家族、そして他職種への注意喚起や情報共有にも取り組んでいます。地域連携にも力を入れており、院内で作成したトレーシングレポートを保険薬局と共有することで、服薬情報の質の向上を図っています。

さらに、大阪府がん診療連携協議会の「薬薬連携部会」では、府内共通のトレーシングレポート様式の作成・普及を進めており、大阪府内でのがん薬物療法の安全・適正使用体制の整備をめざしています。

本セミナーでは、当センターの具体的な取り組みをご紹介しますとともに、がん薬物療法における薬剤師が果たすべき今後の役割について、共に考える機会としたいと存じます。